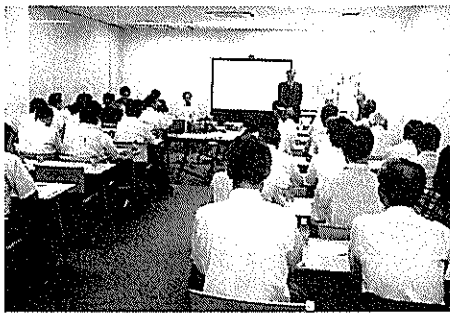


2012年(平成24年)8月16日(木曜日)

あべのキューズ モール運営研修

再開発ビル活性化NW

NPO法人再開発ビル活性化ネットワーク(藤山正道理事長)は9日、大阪市阿倍野区にあべのキューズモール会議室で8月研修会を開いた。



写真。会員ら約40人が参加した。阿倍野再開発のこれまでの動きや、あべのキューズモールの概要・施設運営などについて研修した。

藤山理事長は「きょうは再開発の意義と出来上がった施設の運営の両方を学べる良い機会。皆さんのマネジメントにおいて大いにヒントになると思う」とあいさつした。

研修では、大阪市都市整備局阿倍野再開発事務所の小田章夫経営担当課長が「阿倍野再開発の意義と現況」、東急不動産SCマネジメントの徳永伊知朗マネージャーが「あべのマーケットパーク キューズモール」開発概要及び施設運営」と題し、それぞれ講演した。

小田課長は、再開発により、建築物の延べ床面積が事業前の3・6倍になったことや、あべのキューズタウンの開業で、さまざまな経済効果があったことなどを紹介した。

徳永マネージャーは、キューズタウンの施設計画や建物概要、販促計画や開業後の概要などについて説明した。

また、研修ではNMR流通総研商業開発本部の中坊宗嗣プロジェクトチーフリーダーらをアレクセンテーターに迎え、再開発ビルに付加価値と収益にプラスアルファを加える「インタラクティブ型デジタルサイネージ」の活用について説明があった。